

学校法人北野学園
上田女子短期大学
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

上田女子短期大学の概要

設置者	学校法人 北野学園
理事長名	北野 次登
学長名	松田 幸子
A L O	北村 恵子
開設年月日	昭和48年4月1日
所在地	長野県上田市下之郷乙620

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育学科		150
総合文化学科		80
	合計	230

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

上田女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成21年3月24日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成19年6月14日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、「敬愛」、「勤勉」、「聡明」という建学の精神・教育理念によって地域に根ざした短期大学として、長年、地域の人材育成に貢献してきた。建築に精通した理事長の配慮によって、校舎などの施設や彫刻に至るまで学生の情操に豊かに働きかける環境を整備している。また、学長においては、短期大学が学問的に豊かな場であることを重視し、教育・研究においてリーダーシップを発揮している。また、その上で教育目的、教育目標に基づいた教育を実現するために、教職員が十分に議論しながら教育改革を進めている。

当該短期大学の教育内容は、教育目的に対応する課程編成であり、人材育成の観点からも全体に専門教育として十分な内容を備え、教養科目においても学生の実態やニーズを勘案した工夫や配慮がなされている。学科別にみても、幼児教育学科は実践力のある幼稚園教諭・保育士を育成することに力を注いだ教育課程になっている。また、総合文化学科では、教育課程を9フィールドに分け、履修科目の選択の幅も広く、学生の多様なニーズにこたえるものとなっている。さらに、教育課程内外で取得できる資格が両学科とも5件あるが、希望者の取得率は極めて高率であり、支援体制は功を奏しているといえる。

専任教員数、校地、校舎及びその立地条件なども短期大学設置基準を十分満たしている。特に北野講堂は特筆に値するほど立派なホールといえる。また、教育の中心的な役割を果たす図書館の機能も学生に利用しやすい環境を整えている。図書館利用の活発化を促進するための文学賞を設けるなど、図書館が学習資源センターとしての役割を果たしている。

全教員は、過去3ヶ年において著書、学術論文、学会発表、演奏会、展覧会などの形で何らかの研究成果を外部に発表している。さらに地域社会の文化・教育活動への積極的な展開から、公開講座、公民館活動や地域行政に関する委員としての活動も実施されており、積極的な研究活動が行われている。

創立以来、継続的に行われている公開講座では、学科の特色・講師の専門性に沿って学科ごとに企画、運営されている。公開講座の成果は出版物にされて聴講者や近隣の高等学校などに配布され、地域を活性化する一助として地域の評価も得ている。

理事長、学長はともにリーダーシップを発揮し、管理運営は全体として適切になされている。また、財務状況についても短期及び中期計画に基づきほぼ健全に推移している。

当該短期大学の自己点検・評価においては、各委員会活動を基盤にして積極的に取り組む姿勢がみられる。年度当初に当該年度の目標管理計画書を提出し、年度末にその報告書を提出し、自己点検・評価委員会が目標管理報告書としてまとめるという自己点検・評価を継続して推進してきた。そのことによって、各委員会の目標管理を相互評価するようなシステムとして自己点検・評価が機能するようになったといえる。また、全教員が協力して点検報告を共有できるようになり、トップダウンではなく、開かれた自己点検・評価システムの構築が図られている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「敬愛」、「勤勉」、「聡明」という建学の精神・教育理念について、学長は、担当する1年生の必修科目「現代女性と倫理」という講義の中で具体的に解釈・説明し、それらを教育の実践に具現化している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 総合文化学科では、学生のニーズに合わせて多種多様な科目を設置しつつ、フィールド制を採用し、魅力ある科目履修の幅を広げている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館独自の企画として「文学賞」（作品募集）、「テーマブックス」（絵本紹介）を実施し、図書館に親しみがわくような企画を工夫している。
- 豊かな自然を最大限に生かしたキャンパス整備が計画的に行われており、音響効果の優れたホール（講堂）や斜面を活用した森の教室（階段教室）に代表されるように、教育環境の充実度が高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学予定者全員を対象として履修などに関する予備知識提供のための事前説明会が実施され、入学前の学生生活における不安感を取り除くように配慮がなされている。また、幼児教育学科では、推薦入学者を対象に入学後に目指す保育者への自覚やプロ意識を開眼する目的で「入学準備プログラム」を実施している。

評価領域Ⅵ 研究

- 幼児教育学科の教員で編集された研究論集『見つめる』や総合文化学科の教員により執筆され、授業教材として使用されているサブテキスト『Asunaro』の刊行は、教員の研究意欲の高さを示している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア活動を短期大学の行事と同様のものとみなし、その活動を奨励する体制が整備されており、学生の専門能力の向上と社会的活動の支援を第一義とした支援が効果的に行われている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育目的と教育方針とを区別し、教育目的をより一層明確にする工夫が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 事務組織において一人の担当者が多くの業務を兼務している状況がみられるので、組織機能の充実を図るような工夫が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

「敬愛」、「勤勉」、「聡明」という建学の精神・教育理念が明確である。学長が担当する1年生の必修科目「現代女性と倫理」という講義の中で、それぞれの解釈を具体的に説明している。その上で、教育目的、教育目標に基づいた教育を進めようと、教職員間で共有化を図り、日常的に必要な応じて議論し、その実現に努めている。今後は、教育目的を教育方針の記述の中に埋め込んで表されていることについて検討し、学生により分かりやすいものとなるように整理する必要がある。

評価領域Ⅱ 教育の内容

人材育成の観点からも全体に専門教育として十分な内容を備え、教養科目においても学生の実態やニーズを勘案した工夫や配慮がなされている。学科別にみても、幼児教育学科は実践力のある幼稚園教諭・保育士を育成することに力を注いだ教育課程になっている。また、総合文化学科では、教育課程を9フィールドに分け、学生の多様なニーズにこたえるものとなっている。

授業内容が把握可能なシラバスを作成し、『キャンパスガイド』として学生に配布している。また、具体的に授業目標、授業計画、評価方法などを学生に提示し、明らかにしている。さらに、実践的な授業内容を設定し、学生の主体的な学びを引き出すような授業方法の改善も図られている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教育を施す主体である専任教員数は短期大学設置基準を充足している。その平均年齢は47.7歳で全体のバランスも適性といえよう。また、校地、校舎も短期大学設置基準を十分に満たしている。講義室、演習室、情報処理教室、体育館、講堂、茶室などが整備され、特に北野講堂は、特筆に値するほど立派なホールといえる。パソコンを始めとして、視聴覚用の機器備品も十分に学生の学習活動に寄与できるものとなっている。

学生全員にメールアドレスが配布されているので、さまざまな場面で学生と教員間で、校舎内に敷設されている無線 LAN を利用してコミュニケーションが図れるようになっている。また、教育の中心的な役割を果たす図書館の機能も学生に利用しやすい環境整備を整えている。図書館利用の活発化を促進するための文学賞を設けるなど、図書館が学習資源センターとしての役割を果たしている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

『キャンパスガイド』を通じて学生に周知している教育目標に向けて、幼児教育学科、総合文化学科の両学科とも成果をあげている。幼児教育学科では幼稚園教諭・保育士の養成がほぼ100パーセント達成されている。総合文化学科においても地域に貢献する社会人養成についておおむねその目的を達成している。

授業評価アンケートなどによる授業への満足度は良好といえる。それが、ゼミナール担当者の指導とあいまって、中途退学者の減少にもつながっている。教育課程内外で取得できる資格が両学科とも5件あるが、希望者の取得率は極めて高率であり、支援体制は功を奏しているといえる。

両学科とも地域に貢献することを第一義に考えて教育活動を展開している。幼児教育学科の卒業生に対する評価は高いが、さらに同窓会との連携を一層強め、アンケートなどの実施が望まれる。総合文化学科でもおおむね卒業生への評価は良好であるが、今後、学生のコミュニケーション能力の向上を図ることが期待される。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学選抜方法や入学者への履修情報提供、入学前ガイダンスの実施など、入学に関する支援体制は整っている。入学後の各種ガイダンスの実施、ゼミナール制による学習の動機づけ、学習上の悩み・相談に対するきめ細かな指導体制など、学習上の支援体制は整っている。

また、学生委員会を中心とする学生生活支援体制と整備されたキャンパスが確保されているとともに、独自の奨学金制度と厳正な個人情報の保管・保護が実施され学生生活支援体制が整っているといえる。

さらに、進路相談、就職開拓、進路セミナー、就職決定後のフォローアップまでの広範な進路支援体制と、免許・資格取得を支援する充実した教育課程の実現により地域社会に貢献する高い就職率が実現されている。継続的に実施されている中華人民共和国からの研究生受け入れと授業や実習への配慮による障がい者の受け入れ体制など、多様な学生の特

別支援体制も整っていると評価できる。

評価領域Ⅵ 研究

全教員が、過去3ヶ年において著書、学術論文、学会発表、演奏会、展覧会などの形で何らかの研究成果を外部に発表している。さらに地域社会の文化・教育活動への積極的な展開から、公開講座、公民館活動や地域行政に関する委員としての活動も実施されており、積極的な研究活動が行われている。

各教員には教育研究費の支給のほか、希望者には研究助成費が交付内規に基づき審査の上支給されている。研究成果は紀要や所報及び各教員所属学会や研究会等で発表されている。全教員に対して、インターネットに接続可能なパソコンとエアコンが完備された個室研究室が与えられ、業務に支障のない範囲と土・日曜日を除く毎週1日の研修日が確保されており、研究活動の条件整備は整っている。

今後は、教育活動と学務分掌の多忙な中で、授業方法の研究やグループ研究の実施などについて検討する教員組織や研究体制の確立及び外部研究費の確保と各種GPへの積極的なエントリーなど、短期大学全体の研究活動の推進が課題である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

創立以来、継続的に行われている公開講座では、学科の特色・講師の専門性に沿って学科ごとに企画、運営されている。公開講座の成果は出版物にされて聴講者や近隣の高等学校などに配布されている。また、社会人学生入学試験、長期履修学生入学試験、科目等履修生の学習支援が実施されており、社会的活動への取り組みが積極的に行われている。ボランティア活動を短期大学の行事と同様のものとみなし、活動を奨励する体制がとられ、また、ボランティア活動に積極的であった学生を表彰するなど学生の社会的活動を支援する体制が整備されている。短期留学生派遣としてのハワイ大学語学研修が実施され、昭和60年以来継続的に毎年外国人特別研究生2人を受け入れているなど国際交流・協力への取り組みも評価できる。

今後は、学科の特性を生かした社会貢献、卒業生リカレント教育、生涯学習の全学的なサポート体制の確立及びボランティア活動の全学的位置付けと付随する業務のシステム化を図ることが期待される。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事長のリーダーシップは適切に発揮されている。理事会及び評議員会は寄附行為に基づき定例的に開催されている。監事においてはその責任を果たしており、学校法人の管理運営は適切に行われている。また、理事会から委任された業務を遂行するための機関として「総務委員会」が設置されており、学園全般の運営にかかわり推進力を発揮している。

学長は各科、各委員会に対して明確な教育方針を伝え、教学の最高責任者としてのリーダーシップを十分発揮している。教授会は教授会規程に基づき、原則として月1回開催さ

れ付議事項の審議を行っている。

事務組織は少人数であるが事務局長を中心に整備されており、教員との連携・協力体制の下、適切に業務を遂行している。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は短期及び中期計画に基づき適切に運営されている。財務体質については、学生数の減少にともない帰属収入が減少しているが、学校法人全体及び短期大学部門の財政状況は、現在のところほぼ健全に推移している。外部資金（補助金など）の積極的な獲得など、将来に向けた健全体質維持のため更なる努力を期待したい。

また、施設設備の管理については、台帳類を含め適切に整備されている。防災対策は独自の自衛消防隊が組織されており、年1回の避難訓練を実施するなど、防災面に対する具体的な対策を講じている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

委員会活動を基盤に、自己点検・評価に組織的に取り組む姿勢がみられる。年度当初に当該年度の目標管理計画書を提出し、年度末にその報告書を提出し、自己点検・評価委員会が目標管理報告書としてまとめるという自己点検・評価を継続して推進している。そのことによって、各委員会の目標管理を相互評価するようなシステムとして自己点検・評価委員会が機能するようになったといえる。また、全教員が協力して点検報告を共有できるようになり、トップダウンではなく開かれた自己点検・評価システムの構築が図られている。